

## 岳ノ山～大鳥屋山山行報告

【山行日】2018年3月17(土) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 7:00

【費 用】マイカー1台 : 500円

【メンバー】CL:鈴木、大西、岡、小松原、  
島田、藤原

【コースタイム】岩舟支所P7:00＝市営P7:45/8:00～

五丈の滝8:20～炭焼き穴9:15～岳ノ山9:45～

624mP10:10～大鳥屋山11:10/11:20～市営

P12:15/12:25＝仙波蕎麦加工販売部会13:00/13:40

＝道の駅「たぬま」14:00/14:15＝岩舟支所P14:30



「山に登って下山後、出流の蕎麦を食べたい」と言うリクエストがあったが、千部ヶ岳や三峰山は最近登ったので岳ノ山～大鳥屋山を登り、下山後仙波の蕎麦を食べる計画にした。出流の蕎麦は仙波地区から山を越えて蕎麦粉が供給され、出流蕎麦が有名になったが最近では地元仙波で消費さ



れるため、出流には仙波の蕎麦粉が届かなくなったようだ。途中、道の駅「たぬま」に寄りトイレを済ませて登山口に向かう。県道16号線から国道293号線を葛生に向かって進み、葛生町からは秋山川に沿って進む。仙波の交差点を左に進み、さらに秋山川に沿ってしばらく行くと五丈の滝入口の標識があり、左折して林道を進むと市営駐車場に着く。一応舗装はされているが荒れており、トイレも汚れていて使用したくない。準備を整えストレッチを済ませてから出発する。駐車場から林道を右

に進むとすぐに分岐となるが、標識のとおり右に林道上前沢線を進む。沢沿いに林道を1Kmほど歩くと林道終点の広場に出る。ここからは本格的な登山道になり、「五丈の滝0.5Km」の標識に従って山道に入る。観瀑台への道は通行出来ず、そのまま直進すると滝見の松に出るが松は枯れてしまったようだ。小休止して衣服調整し、滝を見下ろしながら水分を補給する。ここからは沢沿いの道を登って行くが、登山道が荒れていて難儀する。

数年前の大雪と強風により、杉の木が根こそぎ倒され登山道を覆いつくし、TVのサスケ状態で進んで行く。倒木をまたいだり、這いつくばって下をくぐったりの連続で体力をかなり消耗する。約1時間倒木と格闘し、ようやく地獄のような登山道を抜け出すことが出来た。二俣を右に進み急坂を登った所で休憩し、饅頭を食べエネルギーを補給する。ここから少し登ると炭焼き穴があり、植林帯の急坂を九十九折れに登ると山頂への主稜線に出



る。ここから少し登ると炭焼き穴があり、植林帯の急坂を九十九折れに登ると山頂への主稜線に出

る。稜線からは樹間に日光連山や作原の集落が望め、皆さんからようやく「来て良かった～」と歓声  
が上がる。稜線を登り切ると、石祠と石仏が置かれた岳ノ山山頂に着く。山頂からの展望はあまり  
ないが、木の間から日光連山が望める。休憩しリンゴや菓子を食べ、記念写真を撮ったら大鳥屋山  
へ向かう。山頂からは南に延びる尾根を進むが、岩場の急降下等がありゆっくり着実に降りて行く。



アップダウンを繰り返しながら下り、鞍部から登り返し  
た地点が624mピークとなる。ここから200mくらい  
下った地点から東に延びる尾根を行かなければなら  
なかったが、そのまま直進し10分程下ってしまう。途  
中で間違いに気づき、15分程登り返すことになり25  
分タイムをロスした。植林帯の薄暗い尾根を進み、鞍  
部で下山路を左に分けヒノキの植林帯を登り切り平ら  
な尾根を東に進むと大鳥屋山頂上に着く。山の神の石  
祠や御嶽の石碑があり、少し先には一等三角点の標

石がある。

一等三角点にタッチし、山の神の石祠の前で記念写真を撮ったら下山する。下山は鞍部まで来た道  
を戻り、右に踏み跡をたどり降りて行く。スギやヒノキの植林帯の道を下るとやがて林道に出て、そ  
のまま林道を下ると往路の林道に合流しすぐに市営駐車場に着く。靴を履き替えザックを積んだら  
仙波蕎麦を食べに行く。来た道を戻り氷室郵便局の先から山道に入り、峠を越え県道仙波・中央西  
線を進むと仙波蕎麦加工販売部会に着く。ここは地元仙波の方達が土日だけ営業している蕎麦処  
で、美味しい蕎麦が食べられと人気がある。冷たい蕎麦と天ぷらのみのシンプルなメニューしか  
ないが、打ちたての蕎麦が美味しいと評判の店。大盛り蕎麦と天ぷらをオーダーすると、天ぷらは直  
ぐに出てきた。蕎麦は中々出てこなく天ぷらを先にいただくが、天ぷらの量も半端なく女性達はパツ  
クに詰めて半分お持ち帰りにした。ようやく蕎麦が出て来て食べるが、大盛り蕎麦でもアツと言う間  
に食べ終わり少し物足りない感じだった。皆さん満足したようで帰路に着き、途中道の駅「たぬま」  
に寄って買い物し予定通り岩舟支所に帰着した。